

インフォメーション・コーナー

平成 28 年（2016 年）熊本地震に関する農業農村工学会の取組み

熊本地震の被災者の方々に対し心からお見舞い申し上げます。

農業農村工学会では、平成 28 年（2016 年）熊本地震に関する学会内の関連委員会および支部における調査団の結成や調査活動の連携を円滑化するとともに、調査結果等の情報収集・公表、復興支援対策を一元化するために対策本部（本部長は、災害対応特別委員会 委員長 青山咸康京都大学名誉教授）を設置しました。

会 告

○平成 28 年度農業農村工学会賞の決定について	94
○平成 29 年度農業農村工学会賞候補の推薦について 締切 10 月 31 日	94
○第 40 回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第 1 報） 8 月 16～18 日開催	95
○全国土地改良優良工事等表彰式ならびに農業農村工学実用新技術セミナーの開催について㊦ 6 月 20 日開催	95
○「土地改良事業設計指針『耐震設計』」の発行について	96
○「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」の発行について（再）	96
○「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」発行のお知らせ（再）	97
○平成 28 年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い（再）㊦ 申込締切 6 月 15 日	97
○平成 28 年度「研究グループ」の助成希望者募集について（再） 申請締切 6 月 30 日	98
○平成 28 年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について（再） 申請締切 9 月 16 日	98
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	99
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	99
○平成 29 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	100
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	101
○International Society of Paddy and Water Environment (PAWEES) 2016 国際会議 の開催について（第 1 報） 10 月 20～21 日開催	101
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局について	102
○第 67 回関東支部大会の開催について（第 1 報）㊦ 講演申込締切 7 月 29 日	103
○第 73 回京都支部研究発表会の開催について（第 2 報）㊦ 発表申込締切 6 月 30 日	103
○第 71 回中国四国支部講演会ならびに第 40 回地方講習会の開催について（第 2 報）㊦ 講演原稿締切 9 月 9 日	104
○農村計画研究部会第 38 回現地研修集会の開催について㊦ 8 月 29 日開催	105
○「コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会」報告会の開催について 6 月 29 日ほか開催	105
農業農村工学会論文集内容紹介	106
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	108
受入れ図書	109
文献目録	109
学会記事	111

第 84 巻第 7 号予定

展望：震災への対応状況と被災地における共同活動の維持：米田博次

小特集：東日本大震災の被災地の課題と展望

- ▷報文：東日本大震災に対する農地・農業用施設の復旧・復興状況：武田 悟ほか
- ▷報文：岩手県の沿岸地域における復旧・復興の取組み：小野寺健一ほか
- ▷報文：宮城県の沿岸低平地における復興農地整備の取組みと維持管理問題：郷古雅春ほか
- ▷報文：福島県における復旧・復興の現状と課題：菊地和明ほか
- ▷報文：東日本大震災の教訓を踏まえた農工研の技術支援：鈴木尚登ほか

技術リポート

- 北海道支部：北海道における高付加価値農業に向けた畑地用水の利用事例：新津雅士ほか
- 東北支部：東和地区における二良根および川端揚水機場の堆砂対策：門田貴之ほか
- 関東支部：3D レーザースキャナー測量の実施例：小林博行
- 京都支部：紀伊平野地区における小水力発電の計画と騒音対策：岡本祐輝
- 中国四国支部：排水機場の更新整備の設計事例：今岡幹人ほか
- 九州沖縄支部：海岸保全施設整備事業浜地区における地震対策：溝口富士男ほか

小講座：震災時に必要な「食」とは：石川伸一

私のビジョン：私の感じる東北の面白さ：落合博之

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成28年6月16日	資源循環研究部会	平成28年度研究発表会 Ⓟ	水循環・バイオマス利活用に係る研究発表および事例報告	東京都	84巻1号
平成28年6月25日	技術者教育認定に関する検討委員会	平成28年度JABEE農学系分野審査講習会 Ⓟ	—	東京都	84巻5号
平成28年8月29日	農村計画研究部会	第38回現地研修集会 Ⓟ	水田大規模経営と農村の未来	西磐井郡平泉町ほか	84巻6号
平成28年8月30日～9月2日	大会運営委員会	平成28年度農業農村工学会大会講演会 Ⓟ	—	仙台市	83巻12号 84巻1,4号
平成28年9月1～3日	サマーセミナー2016実行委員会	サマーセミナー2016	農業、農業工学の現状・課題・将来についての問題意識の共有	仙台市	84巻5号
平成28年10月20,21日(予定)	九州沖縄支部	平成28年度支部大会 Ⓟ	—	鹿児島市	84巻4号
平成28年10月27,28日	中国四国支部	第71回支部講演会・第40回地方講習会 Ⓟ	—	松山市	84巻5,6号
平成28年11月9日	関東支部	第67回支部大会 Ⓟ	—	長野市	84巻6号
平成28年11月16,17日	京都支部	第73回研究発表会 Ⓟ	—	大阪市	84巻4,6号

平成28年度農業農村工学会賞の決定について

平成28年度の農業農村工学会賞は、平成28年5月9日(月)の理事会において、学術賞1件、研究奨励賞2件、優秀論文賞3件、優秀報文賞2件、優秀技術賞3件、優秀技術リポート賞6件、著作賞2件、地域貢献賞1件、メディア賞1件、功

労賞3件、上野賞2件、沢田賞2件が、決定いたしました。授与式は、来る8月30日(火)に仙台市のホテル法華クラブ仙台で行われます。なお、詳細は本誌7月号巻頭平成28年度農業農村工学会大会講演会のページをご参照下さい。

平成29年度農業農村工学会賞候補の推薦について

平成29年度の農業農村工学会賞(上野賞、沢田賞を除く)を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成28年10月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照下さい。

平成29年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	平成23年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	平成25年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	平成25年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	平成27年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。	平成27年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。	平成26年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。	平成23年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人						
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広げ世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析した業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象期間	平成18年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。	平成18年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。	平成26年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。	平成23年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。	平成23年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。	平成23年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。	平成26年10月から平成28年9月までに発表されたものとする。	
賞の対象業績	一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。		本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建築物、維持保全管理活動等も対象とする。				農業農村工学に関連した作品を対象とする。	平成28年度末に65歳以上に達している個人
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	農業農村工学学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成28年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学学会 学会賞選考委員会宛							

第40回「水の週間」水のワークショップ・展示会について（第1報）

「水のワークショップ・展示会」は例年同様「水の週間」のイベントの一つとして行われます。

今年も昨年までと同様に、農業農村工学学会が農業用水展示実行委員会を組織し、関係団体の協力を得て、農業用水分野として展示の準備を進めてきました。昨年と同様に東京国際フォーラムで開催される丸の内キッズジャンボリーのイベントの一つとして出展します。

多くの方のご来場をお待ちしております。詳細は次号でお知らせします。

記

1. 会 期 平成28年8月16日（火）～18日（木）
2. 場 所 東京国際フォーラム
3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会

全国土地改良優良工事等表彰式ならびに農業農村工学実用新技術セミナーの開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



土地改良事業に関わる新技術の開発、導入を促進するため、当学会に全国土地改良優良工事等審査会を設け、農政局長等の表彰を受けた優良工事等から将来の技術発展に大きく寄与することが期待される革新的な新技術の提案、導入等を行った工事等を学術的、技術的に評価し、全国土地改良工事等学術技術最優秀賞として表彰します。このほど下記により表彰式等を開催し、平成27年度に選定された1件の工事等に関係する3社を全国土地改良工事等学術技術最優秀賞として表彰することとなりましたので、お知らせします。出席を希望される場合にはあらかじめ事務局までご連絡下さい。

記

1. 日 時 平成28年6月20日（月）13：30～15：30
2. 会 場 学士会館（東京都千代田区神田錦町3-28）

3. 主 催 （公社）農業農村工学学会
- 後 援 農林水産省
4. プログラム

【農業農村工学実用新技術セミナー】13：30～

・招待講演

「農業農村整備のための新技術開発」

農林水産省農村振興局整備部設計課施工企画調整室長

佐々木明德

「農村工学研究部門における産学官連携の推進とその成果」

農研機構農村工学研究部門技術転移部長 小川茂男

・受賞者講演

「九頭竜川下流（二期）農業水利事業 河合春近用水路建設工事」 受賞者 株式会社奥村組

【全国土地改良優良工事等表彰式】 15:00~

東急建設株式会社
りんかい日産建設株式会社

- ・開会挨拶 農業農村工学会会長
- ・来賓祝辞 農林水産省農村振興局次長 室本隆司
- ・審査報告 全国土地改良優良工事等審査会会長 田中忠次
- ・全国土地改良工事等学術技術最優秀賞授与
株式会社奥村組

- ・受賞者代表挨拶
- ・記念撮影
- ・閉会

「土地改良事業設計指針『耐震設計』」の発行について

この度、「土地改良事業設計指針『耐震設計』」が平成28年5月に発行されました。

＜主要改定事項＞

「設計指針『耐震設計』」の改定に当たっては、「耐震設計の手引き」を基として、以下の観点から整理・検討を行った。

- ① レベル2地震動を含む耐震設計に関する一般的事項について解説
 - 1) 基本的な考え方
耐震設計に用いる地震動、施設の重要度区分と保持すべき耐震性能等
 - 2) 調査内容
既存資料による調査、一般的な土質調査、土の動的物性調査、地盤の動力学的性質の調査等
 - 3) 設計条件
地域別補正係数、地盤種別、固有周期、耐震設計上の基盤面、荷重等
 - 4) 耐震計算法の種類
震度法、地震時保有水平耐力法、応答変位法等
 - 5) 耐震診断の方法
耐震診断の方法、整備方法等
なお、施設ごとの設計手順等については、施設別の設計基準・指針に記載済みであるため記載しない。
- ② 各施設で適用すべき基本条件（設計水平震度、耐震計算法等）について、横断的に一覧で比較できるように整理
- ③ 耐震対策の事例や平行して検討している「設計指針『ため池整備』」の改定内容等、最近の知見について反映

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業設計指針「耐震設計」
監修：農林水産省農村振興局整備部
発行：(公社) 農業農村工学会
価格：2,600円（消費税8%込、送料学会負担）
規格：A4判 301ページ
改定年月：平成27年5月

2. 申込方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入下さい。
振替口座番号：00160-8-47993
加入者：公益社団法人 農業農村工学会
- ②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封下さい。
- ③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAXでお送り下さい。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
(公社) 農業農村工学会事務局 図書係
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
E-mail：suido@jsidre.or.jp

「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」の発行について（再）

この度、「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」が平成28年4月に発行されました。

＜技術指針の目的と活用より抜粋＞

本技術指針では、水田や用排水路等に生息する魚類など農村地域の生物を保全するため、生物のネットワークの重要性について整理するとともに、連続性や一体性を持たせるため

の方策を示すものである。これまで「環境配慮の手引き」によって取りまとめた調査から維持管理に至る各段階の環境配慮の考え方や新たな技術的知見等を踏まえ、水路整備やほ場整備等について工種横断的に環境配慮の考え方を整理しつつ、環境配慮の手法や工法をより具体化するものである。

また、近年、増加している地域づくりの取組は、地域の活性化や環境配慮施設の維持管理の面からも有効であることが

ら、調査・計画（第4章）、設計・施工（第5章）、維持管理・モニタリング（第6章）において、地域づくりに関する内容の充実を図るとともに、地域づくりの進め方や合意形成手法に関する基本的な考え方、参考事例を取りまとめ、参考資料として掲載することとした。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

1. 発行書籍

書籍名：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針

監 修：農林水産省農村振興局整備部

発 行：（公社）農業農村工学会

価 格：2,600円（消費税8%込、送料学会負担）

規 格：A4判 152ページ

改定年月：平成27年5月

2. 申込方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、

送付先、担当者名、連絡先をご記入下さい。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封下さい。

③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAXでお送り下さい。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」発行のお知らせ（再）

この度、「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」を発行することとなりましたので、お知らせいたします。

初版の「資格試験のための農業農村工学必携」は、「改訂七版 農業農村工学ハンドブック（平成22年発行）」をコンパクトに再編集したもので、資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして、また、農業農村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものとして発行されました。

今回の第二版は、初版で要所に挿入されていた「確認テスト」を最近の資格試験問題の動向に合わせて増補更新し、「テキスト」と「問題集」の分冊形式としています。是非ともご購入の上、お役立て下さい。

1. 発行書籍

書籍名：資格試験のための農業農村工学必携 第二版

編 者：公益社団法人 農業農村工学会

発行年月：平成28年5月

体 裁：B5判 約520ページ

価 格：定価2,777円（税込・送料学会負担）

※会員価格の設定はありません。

2. 購入方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入下さい。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封下さい。

③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailまたはFAXでお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をE-mailまたはFAXでお送り下さい。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

平成28年度 JABEE 農学系分野審査講習会への参加のお願い（再）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



JABEE に対する農学関係者の一層の理解と JABEE プログラム修了者を受け入れる側の理解と協力を得るため、農学関係学協会が共同で研修会を開催いたします。多くの皆様の参加を

期待しております。奮ってご参加下さい。

なお、本研修会は JABEE 公認で、研修会の参加修了者は JABEE 審査員候補者として登録され、本審査のオブザーバー

参加を経て審査員の資格が得られます。

1. 日時 平成28年6月25日(土) 9:45~17:20
(情報交換会 17:30~)
2. 会場 東京大学弥生講堂
(東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内)
3. 主催 農業農村工学会, 農学会, 森林・自然環境技術者教育会, 日本生物工学会
4. 参加費 5,000円(当日, 現金で支払い)
情報交換会費: 2,000円(当日, 現金で支払い)
5. 申込先 農業農村工学会事務局 花塚あて
E-mail: hanatsuka@jsidre.or.jp
6. 申込締切 平成28年6月15日(水)
7. プログラム(案)
 - 9:00~ 受付開始
 - 9:45~ 9:50 オリエンテーション

- 9:50~10:00 開会の挨拶
- 10:00~10:50 JABEE 認定制度の考え方と基本方針の説明
- 10:50~11:40 JABEE 認定基準の解説
- 11:40~12:10 社会的背景, 技術士制度との関係説明(昼食)
- 13:10~13:50 認定・審査の手順と方法, 審査手引きの解説
- 13:50~14:40 自己点検書作成の説明
- 14:40~15:10 新基準の注意点(休憩)
- 15:30~16:20 実地審査の説明
- 16:20~17:20 質疑応答
- 17:30~ 情報交換会

平成28年度「研究グループ」の助成希望者募集について(再)

「研究グループ」の育成を目的とし, 下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度, 3件以内です。

本年度の申請締切は, 平成28年6月30日(木)です。助成金を希望される方は期限までに, 所定の様式(学会ホームページ参照)で研究委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関, 行政, 大学, 民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請: 学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上, 「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお, 申請者の資格は, 後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定: 研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき, その可否を認定し, 学会長に報告する。
3. 助成: 研究委員会は認定した「研究グループ」に対し, 「研究連絡費」を助成する。ただし, その助成は原則として1年とする。
4. 助成対象: 申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち, しかもその研究分野が現在立ち遅れており, それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし, 構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき, 構成員は原則として3名以上, それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は, 助成金申請締切日に40歳未満であること。

5. 活動報告: 助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し, 研究委員会に提出すること。

注1) 研究経過報告書の執筆に当たり, 農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし, 学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上, 学会誌に掲載する。

平成28年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について(再)

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし, 下記取扱い内規によって, 競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は, 60万円程度(原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成28年9月16日(金)です。助成金を希望される方は期限までに, 必要事項を記入した申請様式

(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関, 行政, 大学, 民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
 (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
- (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成28年9月16日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名（または部会名） (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）
- (5) 研究の目的と内容（500字程度）
- (6) 研究資金申請応募先（予定）

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得できる方法として、平成17年10月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で

送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利

用登録が必要)

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌6月号掲載の問題は7月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。)

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成29年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成29年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで、それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第85巻(平成29年1～12月号)

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。(四つ切りワイド、A4サイズも含まれます)。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし、形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

春季 平成28年6月30日

夏季 平成28年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第85巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成29年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は(公社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称(固有名称)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 84 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 縮 切 (A 4 判 1,500 字以内)
84 巻 7 号	東日本大震災の被災地の課題と展望：大会特集号	公募なし
8 号	省力的で安全な農作業技術の最前線と基盤整備の挑戦（仮）	公募終了
9 号	圃場モニタリングのためのリモートセンシング技術の最前線（仮）	公募終了
10 号	電気料金の変動を見据えた土地改良（仮）	6 月 15 日
11 号	都市農業の価値を活かす農業農村整備の多様なアプローチ（仮）	7 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 (公社) 農業農村工学会
 農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
 TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
 E-mail : henshu@jsidre.or.jp

84 巻 10 号テーマ「電力料金の変動を見据えた土地改良」(仮)

東日本大震災以降の電力料金の値上げにより、灌漑排水用のエネルギーを電力に依存している土地改良区ではその対応に苦慮してきました。2014 年以降、原油・LNG 価格の低下により、発電コストは大幅に低下したものの、再生可能エネルギー発電賦課金などは増額されており、また原子力発電の先行きも不透明な状態にあります。そのため、電力料金の変動に大きく左右されない土地改良施設の整備や管理のあり方を、短期的・長期

的視点の両面から検討しておく必要があると考えられます。

そこで、本小特集では、東日本大震災以降高水準にある灌漑排水用電力料金によって変更を余儀なくされた水管理や施設維持の実態、電力コスト縮減のためにこれまで現場で取り組まれてきた対策、灌漑排水システムを構成する各要素における節水・節電に寄与する技術、さらに土地改良施設における新エネルギー導入の効果や課題などについての報文を広く募集します。

84 巻 11 号テーマ「都市農業の価値を活かす農業農村整備の多様なアプローチ」(仮)

わが国の都市農業は、都市農業者や関係者の努力により、農産物の供給に加えて、防災、景観形成、環境保全、あるいは農業体験・学習の場の提供といった多様な機能を発揮しており、都市農業に対する評価が高まっています。

農村そのものへの理解を深めることにつながり、さらには都市農地が“あるべきもの”としてあることにより、環境共生型の都市を形成する上で重要な役割を果たしていくと期待されています。

このような中、平成 27 年 4 月に、「都市農業振興基本法」が制定されました。都市農業の安定的な継続を図り、多様な機能を適切かつ十分に発揮させることにより、良好な都市環境の形成に資することを目的としています。都市住民から顔が見えるところで都市農業が営まれることは、厳しい状況にある農業・

本小特集では、このような政策転換を受けて検討されつつある基本計画などの施策事例、都市農地の保全や防災、良好な景観形成に取り組んでいる農業農村整備事例など、あるいは進展する都市農業が求める農業農村整備に関わる課題・提案に関する報文などを、民間も含めて広く募集します。

International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) 2016 国際会議
 の開催について (第 1 報)

国際水田・水環境工学会 (PAWEES) の国際会議は、2016 年 10 月 20~21 日、韓国大田広域市のユソンホテルで開催されます。詳しくはホームページ (<http://pawees.net/>) をご覧下さい。

1. 開催日 2016 年 10 月 20 日 (木) ~ 21 日 (金)
2. 会場 Yousung Hotel, Daejeon City, KOREA
3. テーマ
Main Theme : Sustainable Paddy Water Management in

Water-Energy-Food NEXUS

Sub-theme :

Water-Food Relationships and Agricultural Water Management
 Tools and Analysis for Better Paddy Water Management
 Climate Change and Paddy Water Management
 Small Conference by ICID Asia Regional Working

Group

4. 今後の日程

6月20日 Abstract 提出
 8月1日 採用通知
 9月1日 発表要旨提出
 9月20日 最終プログラム発表

5. 投稿先 E-mail : inhong@snu.ac.kr

**国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と
 2015年1月から2017年12月までの編集事務局について**

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.151 (2015年版) と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界14カ国からEditor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)
 Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ **Editors** 14カ国から23名
- ・ **Editing Board** 26名
- ・ **Chief Management Editor**
 Dr. Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

・ **Managing Editors****Chihhao FAN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

編集事務局 (2015年1月から2017年12月まで) :・ **Professor Dr. Jin-Yong CHOI**

Deputy Director General, Institute of Green-Bio Science and Technology

Rural Water and Information Engineering Lab.

Rural Systems Engineering Program, College of Agriculture and Life Sciences, Seoul National University

1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742

TEL : +82-2-880-4583 FAX : +82-2-873-2087

E-mail : iamchoi@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料：正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員（院生含む）8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局

第 67 回関東支部大会の開催について（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時

支部大会講演会、講習会、情報交換会
平成 28 年 11 月 9 日（水）時間未定

上記参加申込締切日：平成 28 年 8 月 26 日（金）

2. 場 所

- (1) 支部大会講演会、講習会
JA 長野県ビル アクティーホール
〒380-0826 長野県長野市大字南長野北石堂町 1177-3
TEL：026-236-3600
- (2) 情報交換会
ホテルメトロポリタン長野
〒380-0824 長野県長野市南石堂町 1346
TEL：026-291-7000

(2) 講演申込み

申込締切日：平成 28 年 7 月 29 日（金）

原稿締切日：平成 28 年 8 月 26 日（金）

講演申込み希望者は、「講演者所属および氏名」、「演題（仮題でも可）」、「講演要旨（200 字以内）」を明記のうえ、下記事務局までお申し込み下さい。

3. 参加申込み

- (1) 講演会、情報交換会

4. 問合せ先（事務局）

長野県農政部農地整備課指導担当 片桐、原田
〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下 692-2
TEL：026-235-7241 FAX：026-233-4069
E-mail：nnkantotaikai@pref.nagano.lg.jp

5. その他

詳細は本誌 7 月号に掲載予定です。

第 73 回京都支部研究発表会の開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 平成 28 年 11 月 16 日（水）10：00～17：00
(受付開始 9：00～)
- (2) 会場 大阪リバーサイドホテル
〒534-0027 大阪市都島区中野町 5-12-30
TEL：06-6928-3251 FAX：06-6928-3260
- (3) 会場までのアクセス
【JR】大阪環状線「桜ノ宮駅」西口より徒歩 3 分
【地下鉄】谷町線「都島駅」2 番出口より徒歩 7 分

③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門（水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他）、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレス。なお、件名を「発表申し込み」として下さい。

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成 28 年 11 月 16 日（水）18：00～20：00
- (2) 会場 大阪リバーサイドホテル

5. 投稿原稿申込み

- (1) 原稿投稿先および期限

平成 28 年 7 月末日までに、研究発表の申込みをされた方は、投稿要領に基づき作成した原稿（PDF もしくは MS ワード）と投稿票（MS エクセル）を、電子メールで京都大学・藤澤までご送信下さい。投稿票は、京都支部ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>）よりダウンロードして下さい。

3. 現地研修会

- (1) 日時 平成 28 年 11 月 17 日（木）
- (2) 内容
現地研修会のコース等、内容は決まり次第、農業農村工学会ホームページ内の京都支部ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>）にてお知らせいたします。

※申込みは、電子投稿のみで結構です。受信時に事務局より受信確認メールを返信いたします。

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
京都大学大学院農学研究科地域環境科学専攻
藤澤和謙
E-mail：fujik@kais.kyoto-u.ac.jp
TEL：075-753-6152

4. 研究発表申込み

平成 28 年 6 月末日までに、発表希望者は投稿原稿に先立ち、以下の情報を簡条書きにした電子メールを京都大学・藤澤にご送付下さい。①表題（仮題でも可）、②発表者名、所属、年齢、

- (2) 投稿要領

・発表者は学会員に限らない。ただし、連名者に少なくとも 1 名は学会員が含まれること。

- ・投稿要領および原稿の書式については、京都支部ホームページ内の「発表申込票（投稿票）と投稿要領」（<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>）を参照して下さい。
- ・原稿の枚数は図面を含めて2枚とします。
- ・発表時間は12分（質疑応答は3分）です。
- ・原稿はそのまま印刷しますので、鮮明なものを提出して下さい。
- ・発表の補助道具としてパソコン（OSはWindows7、ソフトはPowerPoint）を準備します。
- ・データはCD-R、USBメモリーでご用意下さい。

6. 参加申込み

(1) 参加申込み

参加申込みは、(株)日本旅行を通じて行います。農業農村工学会ホームページ内の「京都支部研究発表会の開催について」（<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>）にアクセスし、「参加申込」のリンク先から参加申込みをお願いします。

(2) 申込期限 平成28年9月2日（金）

(3) 参加費等 研究発表会 会員3,000円

非会員4,500円

情報交換会 5,000円

現地研修会 3,000円（学生は無料）

(ア) 昼食

研究発表会の会場周辺では昼食をとる場所が少ないので、弁当を1,000円/個（税込み・お茶付）で事前予約にて

受け付けています。ご希望の方は参加申込みに併せて申込み願います。

(イ) 参加費の納入

申込みを受け付けた後、(株)日本旅行より請求書を送付いたしますので、請求書記載の振込先へ平成28年10月14日（金）までにお振込み下さい。振込手数料については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は、(株)日本旅行を通じて行います。ご希望の方は参加申込時に、希望のホテルをお選びいただき、参加申込に併せて申込み願います。なお、客室数の都合上、ご希望に添えない場合がございますのでご了承ください。

7. 参加申込み・問合せ先

(株)日本旅行

「第73回農業農村工学会京都支部研究発表会」担当

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1-2-12

TEL: 06-6621-4125 (直) FAX: 06-6621-4180

営業時間: 平日10:00~18:00 (土日祝日休業)

8. 開催地事務局

大阪府環境農林水産部農政室整備課内

第73回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当 高橋、深江

TEL: 06-6210-9600 FAX: 06-6210-9599

E-mail: TakahashiKoj@mbox.pref.osaka.lg.jp

第71回中国四国支部講演会ならびに第40回地方講習会の開催について（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部講演会

開催日: 平成28年10月27日（木）

会場: 松山市総合コミュニティセンター

〒790-0012 愛媛県松山市湊町7-5

TEL: 089-921-8222 FAX: 089-931-3304

2. 情報交換会

開催日: 平成28年10月27日（木）

会場: 未定

3. 地方講習会

開催日: 平成28年10月28日（金）

会場: 松山市総合コミュニティセンター

4. 問合せ先

※参加申込窓口と原稿提出窓口を別にしてありますので、ご注意ください。

(1) 講演会・情報交換会・講習会申込窓口・問合せ先

愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課

大竹・犬伏・日野

〒790-8570 松山市一番町4-4-2

TEL: 089-912-2540 FAX: 089-912-2534

E-mail: nouchiseibi@pref.ehime.jp

(2) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

愛媛大学大学院農学研究科地域環境工学コース

治多伸介

〒790-8566 松山市樽味3-5-7

TEL & FAX: 089-946-9963

E-mail: haruta@agr.ehime-u.ac.jp

5. 講演申込み

(1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを合わせて1課題3ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページの支部のページ（<http://www.jsidre.or.jp/shibu/>）に掲載してある講演原稿の書き方に従って原稿を作成し、原稿をPDFにしたファイルと投稿票（前記支部のページからダウンロードできます）をメールにより上記の講演申込先までお送り下さい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」

として下さい。受領確認はメールで返信を行います。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演者（○印）の方は必ず連絡先メールアドレスをお書き下さい。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも1名は学会員であることが必要です。

(3) 講演方法

個人発表とし、講演補助としてプロジェクター、パソコン、パワーポイントを準備します。

(4) 講演時間

1 課題につき 15 分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

(6) 参加申込み

講演者は、講演申込みとは別途に参加申込みも行き、必ず参加費を納入して下さい。なお、参加申込書等詳細は、第3報でお知らせする予定です。

(7) 原稿の締切

平成 28 年 9 月 9 日（金）必着でお願いします。

6. 詳細

講演会・情報交換会および地方講習会の詳細については、本誌7月号に掲載予定の第3報でお知らせします。

農村計画研究部会第38回現地研修集会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主催 農業農村工学会農村計画研究部会

協賛 農村計画学会（予定）

後援（調整中）

2. 日程 平成 28 年 8 月 29 日（月）

3. 場所 岩手県西磐井郡平泉町および一関市花泉町

4. テーマ 水田大規模経営と農村の未来

5. 趣旨

TPP 合意など厳しい環境下で将来にわたった水田農業の基盤を形成するために、農地中間管理事業の開始や（巨）大区画水田の整備が行われています。これら農地の規模拡大や集約化の進展は、出し手農家の農業との関わりを大きく変化させることにより、農村の社会構造や景観に大きな影響を及ぼすと考えられます。

そこで農村計画研究部会では、「水田大規模経営と農村の未来」をテーマとして、岩手県南部の大規模水田経営体と、この水田経営体に関係する圃場整備事業を視察する現地研修集会を開催いたします。水田大規模経営体の実情と今後への期待などについて当事者から話を聞き、現地を目の当たりにし、学ぶことで、今後の農村地域の将来像とその実現への手掛かりを得ようとするものです。

皆様方の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

なお、本現地研修集会は、農業農村工学会全国大会中に開催される企画セッション「水田大規模経営と農村の未来」と連動した企画です。

6. 行程（案）

10 時 JR 一ノ関駅集合

岩手県平泉町

・農事組合法人アグリ平泉

平成 18 年設立、経営面積 100 ha、

園芸品目導入、パン加工販売

・担い手育成基盤整備事業「一関第二地区」

（昼食）

岩手県一関市（旧花泉町）

・農事組合法人なつかわファーム

平成 26 年設立、経営面積 450 ha、

農地中間管理事業活用

・経営体育成基盤整備事業「夏川地区」

17 時 JR くりこま高原駅解散

※参加申込方法など詳細については、本誌7月号に第2報として掲載予定です。

「コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会」報告会の開催について

「コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会（委員長：濱 幸雄・室蘭工業大学）」では、平成 26 年度からの 2 年間にわたる調査研究の総括として、東京、仙台および札幌において活動成果を公開します。詳細は日本コンクリート工学会ホームページ（<http://www.jci-net.or.jp/>）をご覧ください。

1. 主催 日本コンクリート工学会

後援 農業農村工学会ほか 10 学協会（予定）

2. 会場および開催日

東京会場 品川区立総合区民会館きゅりあん

平成 28 年 6 月 29 日（水）

仙台会場 ハーネル仙台

平成 28 年 7 月 22 日（金）

札幌会場 札幌市教育文化会館

平成 28 年 8 月 5 日（金）

3. 問合せ先

（公社）日本コンクリート工学会「気泡委員会報告会」係

担当：大野 TEL：03-3263-1571 FAX：03-3263-2115

E-mail：ohno@jci-net.or.jp